

Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

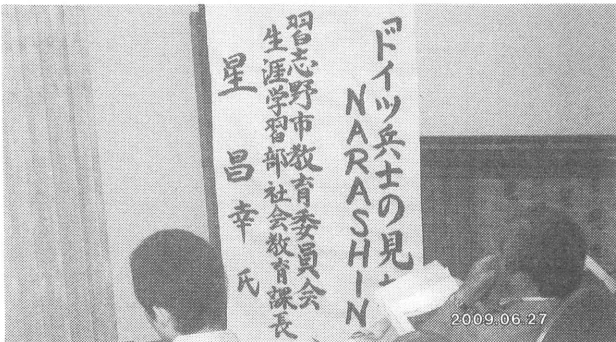
事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

講演会「ドイツ兵士の見た NARASHINO」開催



講演する星課長



講演会場寸景

今回の講演会は、習志野市教育委員会・社会教育課長の星昌幸氏にお願いして、去る6月27日(土)午後3時半より、千葉市生涯学習センター「メデアエッグ」で開催され、会員等約60名が参加。第一次世界大戦時に捕虜として千葉県の習志野俘虜収容所に収容されていたドイツ人捕虜と日本人との交流等に就いて講演して頂きました。星課長は収容所を通して当時の日独交流に就いて深く研究しておられます。ご承知の通り当協会は、毎年11月のドイツの「国民哀悼の日」に、当時世界中で猛威を振ったスペイン風邪のため収容中に亡くなり故国に帰ることが出来なかったドイツ人兵士30名の慰霊祭を主催しております。また習志野市は昨年11月に東習志野4～5丁目にあった収容所跡地の一角に「ドイツ捕虜オーケストラの碑」を建立しました。昨年は第一次世界大戦終了90年目に当り、当協会としてもこの機会に改めて日独交流の歴史に思いを新たにす為の講演を依頼したものです。(常任理事 坂本 宗秋)

「ドイツ兵士の見た NARASHINO」
講演 習志野市教育委員会・社会教育課長 星昌幸

大正三年(一九一四年)第一次世界大戦がヨーロッパで勃発し、日本は日英同盟により連合国側として参戦し、中国山東省のドイツ租借地の青島を攻撃、短期間で陥落させた。ワルデック総督以下将兵約五千人が捕虜となり日本に送られた。久留米、東京等十二の捕虜収容所に分散収容されたが、翌年四月九月にその内約千人が各地から新たに設置された習志野俘虜収容所に移送された。収容所長は西郷隆盛の嫡男西郷寅太郎大佐で、ドイツ士官学校に留学し、滞独十三年でドイツに深い理解を持ち、捕虜を温情を持って遇した。収容所は鉄条網と塹壕で囲まれていたが、所内での活動は自由が許され、近くの住民との交流も多くあり、収容所内での捕虜の音楽演奏会、演劇会、映画会、スポーツ大会等多くの行事には近隣の学校の生徒も見学に来ていた。当会の歌田實理事の母上は小学校の訓導で生徒を連れて収容所見学の折、捕虜から手製のボトルシップを贈られた。捕虜たちの本来の職業は多岐にわたっており、種々の知識や技能、技術を持ったものが多く、多彩な生活を過ごしていた。収容所内では本格的なソーセージをつくっていたが、その秘法が西郷所長の要請を受けたマイスターのカルル・ヤーン等により千葉の農商務省畜産試験場飯田技師に伝授され、ソーセージは全国に広まった。日本でのソーセージの発祥の地は習志野市とされている(日本食肉加工協会)。山梨にワイン品質向上のために招聘されていたハインリッヒ・ハムは、急遽青島に召集され、結局習志野に収容されたが、その技術は伝承されサントリー山梨醸造所で活かされている。音楽演奏は大変盛んでハンス・ミリエス指揮する捕虜オーケストラは度々演奏会を開催し、多くの有名な演奏曲目が所内で印刷されたプログラムに見られる。また軽音楽バンドもあり、ワルツやオペラの挿入曲などが演奏された。(裏面に続く)

—今後の主な催し物案内—

1. 「ドイツ軍人慰霊祭」

日時：平成21年11月15日(日) 午前11時より
 場所：船橋市営習志野霊園
 住所：船橋市習志野2丁目5番9号
 問い合わせ先 TEL：047-467-6111(事務局、平野)
 案内：JR 総武線津田沼駅北口よりバスで15分「自衛隊前」下車。正門に 向かい左側50m角を右折、徒歩7分右側です。

直会：慰霊祭終了後、午後0時15分頃より習志野自衛隊駐屯地内で直会を行います。

会費：直会(なおり) 2,000円

注意：駐屯地内への入場に際しては、事前に入場者の住所・氏名の申請が必要となります。

出欠：同封の葉書で10月15日(木)迄に投函下さい。

2. ドイツ語講習会のご案内

下記の通り講習会を開講します。

講師：当協会会長代行 宗宮 好和千葉大教授

講義内容：ドイツ語の文章を読み解く為の方法とその為の文法

日時：10月15日(木)、22日(木)、29日(木)
 11月13日(金)、19日(木)の16:00~18:00

場所：船橋中央公民館(047-434-5551)

教材：各回用意します。

費用：全5回で3,500円

連絡先：舘野 鷹二郎(TEL:047-485-9311)

3. 「クリスマス・忘年会」のお知らせ

- ・日時：平成21年12月12日(土)17:00~20:00
- ・場所：「喫茶店 JIN」 千葉市美浜区高洲4-1-3
TEL 043-243-0055
<http://www.ne.jp/asahi/jin/ukyo>
- ・催し物：*バンド演奏(ピアノ、ギターなど)
*ナマオケ *ドイツリートの合唱
- ・会費：4,000円
- ・詳細次号(11月発行)

「楽しくドイツ語を話すタベ」(第1回)

去る7月24日(金)タベ、会員20名と千葉大学留学中のドイツ人学生5名(男子2名、女子3名)、日本人女子学生1名の計26名が参加して開催されました。

第一部は船橋中央公民館にてNHKラジオ講座でお馴染みで、かつ千葉県日独協会の会員でもある千葉大清野先生による好リードで、日本語無し、ドイツ語のみでゲームなどを1時間程楽しみ、その後、近くの居酒屋「和民」に席を移し、飲食を共にしながら2時間に亘りドイツ語会話を楽しみました。参加者からは「大いに楽しく満足した」との感想が聞かれました。次回は9月11日(金)、第3回は10月に開催を予定しています。一人でも多くの皆さんの参加をお待ちしています。(会員 川口正光)



清野先生(テーブルに向かい右側前列3人目)と参加者の皆さん

ごく最近になってバンドリーダーはアドルフ・シェーファーであることがこの三月に来日した甥(マールブルグ大学医学部教授)により判明した。捕虜の勉強会も活発で以下に挙げる捕虜仲間を講師にした数学、電気・機械工学、日本文化などの講座が開設されていた。フリッツ・ルンプは広範囲な日本文化研究家で、帰国後ベルリン大学で博士号を取得。特に浮世絵に関する研究では、この分野の基盤を築いた。日本民話のドイツ語への翻訳は習志野で仕上げ、未だにドイツ人に読まれている。ヨハネス・ユーバーシャールはドイツの影響を受けた日本憲法の研究によりドイツで博士号を得て来日し、青島での降伏交渉では通訳を務めたが、捕虜となって習志野に收容された。解放後は京大等でドイツ文学等を講義したが、その後帰国し母校ライプツヒヒ大学教授となり日本文化研究所を設立した。昭和十二年には再来日し、甲南高校等でドイツ語を教え、又芭蕉の俳句のドイツ語訳ですぐれた業績を残した。当会の平尾会長他多くの方々が教えを受けている。カール・フォン・ヴェークマンは美術史研究家。来日後、すぐに日独戦争に巻き込まれ、習志野收容所に收容された。解放後は松山高校のドイツ語教師となり、同地で日本人と結婚、更に陸軍大学等でドイツ語を教えるほか、「日本の歴史」「日本の文化」等を著し広く日本文化を海外に紹介した。昭和三十年に習志野霊園に、スペイン風邪等で亡くなり故国に帰ることが出来なかったドイツ兵三十名の慰霊碑が建立されたが、ヴェークマンは墓前で追悼演説を行い参加者の涙を誘った。

收容所にはその他、外交ブローカーといわれ名を馳せたフリードリッヒ・ハックや、銀座のドイツレストラン「ケテル」を設立したヘルムート・ケテル等、後年名を知られるようになった捕虜も收容されていたのである。